

国分寺市図書館運営協議会第4期第7回定例会

日時：平成26年2月14日（金） 午前9時30分～12時00分

場所：本多公民館 第2会議室

欠席：3人 傍聴：0人

会長：協議事項ということで、図書館アンケートの実施に向けての事務局からの説明。

館長：図書館利用者アンケートは以前から利用の実態を把握する意味もあり課題になっていて、平成22年図書館評価でも、項目は実施すると言っていたが着手できずにいた。今回アンケートの案ができたので、見ていただきたい。資料7-1の調査の目的としては、国分寺市立図書館に来館した利用者に対して利用実態を調査し、今後のサービス改善を務めたいと考えている。全戸の全市民を対象とした抽出した市民に対してのアンケートや来館者へのアンケートでも聞き取りなどの方法もあると思うが、今回は配布した紙に、市内6館に来館した方に直接書いていただこうと考えている。11日から16日までの1週間に直接配付し、回収し集計することを考えている。国分寺市では2、30年前、個別の館で実施したことはあるが市内全館でアンケートをとるのは初めてなので、基本的な内容で、どのような形で利用されているか、蔵書や利用方法などが市民の方の事情に合っているのか、満足度などについてアンケートを行いたい。ついては図書館利用の頻度。2番目は図書館の利用目的で、国分寺市の場合は公民館が必ず併設されているので、公民館利用のついでということを含めて項目を考えた。3番目は利用内容で、本を借りにとかインターネットパソコンの利用など、利用目的やサービス内容について問うている。4番目は図書館が役に立っているか。資料面、所蔵している雑誌、本、CDは満足かやや不満か不満という5段階の回答をお願いしている。利用方法については、貸出数、貸出の期間、リクエスト数、裏面に取置期間の4点について伺っている。3点目で図書館での調べ物や利用について、自分で利用した場合と職員が手伝いながら利用した場合とで分けている。大きい5点目は図書館からの情報発信について。この後で、利用者懇談会の話もさせてもらうが、なかなか人が集まらないのは広報不足ではというご指摘も頂いている。図書館のお知らせを、どういう形で入手しているのか、どのようにお知らせをしていったらいいか知りたく、この問いを作った。蔵書検索や予約方法について、インターネットの使用が多いが、新システム導入時には、携帯電話ホームページからの予約がどれくらいあるのか、それに合わせてどう構築していく必要があるのかということも含めて考えた。3点目として図書館にしてほしいサービスはどのようなことなのかを書いてもらう。4のところでは、自由記入欄を設け、記入した人の年代、性別、住んでいる場所（国分寺市内あるいは相互の連携を図っている地域の方、それ以外の方）と質問項目としては以上大きく7つ考えた。

会長：3月11日から16日ということ約1カ月後ということになるが、アンケートを来

館者対象にして用紙を配布してやりたいということだが、何かあるか。

委員：1は、初めてというのが7番にあるが、少ない方から並べたほうがいい。2の⑥の「ついで」は引っかかる人がいるのではないか。「公民館の利用もあったため」とする。4の望冊数は必要か。どのくらいの希望冊数か聞くと、数が多いのは心配だ。

館長：現在12冊、リクエストの本が回って来ないのは12冊借りられるのは多すぎるからだという意見をここ近々に頂いている。それだけが理由ではないと説明はしているが、少ないというご意見より、多いというご意見も頂いていて、相互利用している国立・府中・小平、今後も考えている立川は10冊なので、このアンケートだけで冊数を変更するつもりはないが、12冊というのは、多いのか少ないのか聞いてみたい。

委員：多い少ないと希望冊数というのは次元が違うのでは。

館長：多い、普通、少ないの方がいいのか。

委員：細かいことを言うと、裏面もあるが、普通の人は表で終わってしまうのではないか。下に、「裏へ続く」「裏もあります」とあると、もれなく7番まで行くのかなと思う。

会長：2の「公民館利用のついで」は文言を変えて。他には。

委員：4-③、図書館の人の対応はどうかと尋ねていないので図書館側としては今後指定管理になるかもしれないのでそういうことに敏感に対応して、より良い方向に進んで行ってもらいたいと思う。それとサイン表示のこともお尋ねしていいと思う。

会長：それは利用方法と違うもの。4-④を作って別項目で。図書館はA4、1枚にしたいのだから調整し、文字を1ポイント落とすか余白を狭くして。今の意見も重要で、図書館サービスの原点である職員の対応はどのように感じられているかも大切。

委員：調査期間が短い。貸出期間と同様2週間はやってほしい。手渡ししか置いておくのか。

館長：館の規模にもよるが、小平は4日間で3,000件、国分寺はそこまで利用が多くないと思うが、毎日来館している方は1回書いてもらえばいい。土日も1回は入れて、土日だけ利用されている方にもご意見を聞きたい。どのくらいのサンプル数かわからないが、あまり多くなっても集計が厳しい状況になるので、本当は1カ月ぐらい置いておくのもやり方としてはあるが、ある程度短期で、1週間、おいでいただいた方に出していただきたい。土日は無理かもしれないとは思っている。

委員：5日間やればある程度信頼に足るサンプルが出るということか。

委員：最低やる以上は2週間やった方がいい。その方が本来の回答が聞けるのでは。1日100人来たらみんなは書かないだろうから、なおさらもう1週間やった方が当然正しい結果が。多すぎるならそれはそれでいい。

館長：どのくらい集まるかはわからないが、臨時休館の次の週と考えた。後半は春休みでイレギュラーになるかとも思うので。18日から24日までにもっていくのは可能かと。

委員：書いて入れていく形か。

館長：書いていただき、箱に入れていくという形を取りたい。

会長：一般的に置いておくだけではとらない。来館者一人一人に渡して回収率7割とかいけばかなりいいというのが一般的。休館日明けなら利用は見込めると思うので、当

面は一週間、状況を把握するには、土日を入れて1週間でいいかなど。来館者に一人一人手渡しするのが大事なので、それを1週間続けられるかがむしろ重要なこと。アンケートの冒頭に、主旨説明を入れ、〇〇の目的のためにアンケートに協力くださいとする。簡単でいい。いきなり質問だと戸惑うかなと思うので。それと質問の文言は、受け取る側の気持ちの問題もあるので、紋切り型でなく柔らかい言葉を使って。利用目的、利用頻度、と言われるとなんだらうと思われるので、1行の中に収まる丁寧な言葉で書いていただければ。

委員：図書館の利用内容だが、普通に借りて返すのは①になるのか。

館長：②はリクエストを申し込みに来たり受取に来たりということ。

委員：いつも小説ばかり借りるのだが。それは「資料」ではないということですか。

館長：本や雑誌やCDなど全部集めて「図書館資料」としている。その、言葉がわかりにくいようであれば、丁寧に「本」、「雑誌」と書く。

会長：「資料」というのは専門用語的で、調べ物に対するものととらえられる。

委員：そういう小説などを借りる場合は趣味に入るのか。

館長：そうだ。

委員：単に読みたい本を借りるのはどこか。

委員：普通の人にはわからない。

委員：読みたい本を借りるのはどこかなあと思う。図書館の人はわかるが一般の人は柔らかい言葉を望んでいる。目線をうんと落として。

会長：図書館の人は使い慣れているからつい使ってしまうが、一般の人が理解するのは難しいので、図書館と関係ない人の話を聞いていただくとわかりにくいという人もいると思う。確かに普通に小説や何かを借りる場合は趣味というのとも違う。

館長：楽しみのためということばにする。

委員：「資料」を借りていくわけではない。

委員：アンケートの収集の仕方。コンシェルジュを表明するのであれば、もっとコンタクトをとっていただく。幅広く取るのであれば声をかけて。「これ書いてくださいね、おじいちゃん」なんて言われれば私だったら喜んで書く。放っておいても書いてくれる人と書かない人、10代20代、せっかく幅広く取ろうとしているのだから、一緒に書くとか、「週に何回ぐらい来るの？」とか聞きながら書くとか、「おうちの人と一緒に書いてね」とか、借りに来る人、返しに来る人に声をかけて。「いつもありがとうございます、ちょっと書いていただけませんか」とか。「声を聞きたいので」という声かけ。「鉛筆もここにありますよ」とかいうしつらえ、こっちからの投げかけ。

館長：普段はカウンターに職員がいて、本棚に本を戻す職員がフロアに少しいるという感じだと思うが、アンケートの期間はプラスで職員がフロアに出ないといけない。そこで紙は貸出返却のところにも置くが貸出と関係ない人にもアンケートを渡したい。書かないで帰られる人を少しでも捕まえて書いていただくとか総動員という形でやらないと難しい。そういう意味もあって期限を1週間にしてみた。

会長：今の発言は重要なことで、用具を用意し書いていただく姿勢も必要かなど。そういう案内ができることが大事。視点も重要。ほかは。

委員：パソコンで紙を出して、図書館の人に探してと頼んだらすぐやってくれた。すごく助かった。私はここで図書館の人と知り合っているからすぐにできるけれど一般のお客さんはなかなかできない。図書館の人と親しくコミュニケーションをとればいいと思っている。

会長：やはり、渡すときと受け取る時に一声かけて。そこからコミュニケーションが生まれてくると思うので、そういうことを大事にさせていただくとそこから効果というのが生まれてくる。アンケートの効果は高まる。

副会長：図書館を利用しない人は、カウンターで聞くことにためらうことがあると思う。フロアに出ていただいて何気ない話をしながらのアプローチもいいかと思うので、もっと身近に図書館があつていろいろものがありますというのを伝えるツールとして使われればいい。

会長：記入する際わからないことがあればお聞きください。と一言加えていただくと参加しやすい。4-③は図書館での調べ物や利用についてという資料の整備状況という意味合いか。なにか一言加えたほうがいいかなと思う。自分で調べ物をした時に満足、イメージとして浮かぶかどうか。

館長：調べたいものは見つかりましたか。というふうに変える。

会長：そういう感じの文章で。いろいろご意見をいただいたがよろしいか。

委員：後で家に持って帰って持ってくるのを受け入れてもらえるか。予備の期間を10日くらいとって、お届けくださいというのをに入れて置いていただければ。

会長：それと、事前の告知をし、「いつからいつまでアンケートを実施します」という掲示し、予めお知らせして実施する。今月中、あるいは来週ぐらいにでも。

委員：7のところ「ご協力ありがとうございます」と先に書いてから「ご本人のことを」と入れたほうがいい。「ご記入いただいた方の情報を頂きたいので」として。

会長：国分寺の場合だと利用するのは比較的近くに限られるか。本多は。

館長：本多図書館は夜間をやっているので、本多は遅い時間を狙って利用しに来る。

会長：国分寺市内「町名（ ）」で、自由記入で町名を入れていただくとどこから足を運んでやってくるのかわかる。

館長：町丁名別の貸出統計とか調べることはできるが、町丁名別が入っていた方がいいので全部町名を書くのは難しいので、（ ）

委員：せっかく6館も図書館があるので、それが強み。

委員：あとあと重要なデータになる。これだけ広範囲に使われているという。何かの説明の時に材料になる。

会長：せっかくのアンケートだから客観的なデータとしてこういうのは必要だなと。大体よろしいか。ではあとは結果に期待するという話で。

館長：いただいたご意見をもとに、もう一度練り直して、この時期に実施したい。

会長：よろしくお願ひしたい。では2番目に本多図書館駅前分館について。

館長：駅前分館については一昨年12月から昨年3月まで、市民の方にご意見を寄せていただき、駅前分館だけではなく、国分寺の駅の西街区の5階の公益床部分について、ご意見をいただくという機会をもった。その時には特定建築者という、今回の開発を主に建築にかかわる業者が決まっていなかったのが、公益の床の部分約1,800㎡についてどのようにしていくのがいいかということを知った。各関連の施設と開発事務所があったところにポストを置いてご意見をいただいた。それを参考に各々の部署が今後、図書館だったら図書館の部分を考えていく。図書館では、本多・もとまち・光の3か所で利用者懇談会を開催し、そこでのご意見も併せて公益床の検討の部会に提出していた。6月に特定建築者が決まり、この後実施設計をしていく予定になっている。今年の上半期ぐらいには実施設計をすることになっているが、そこでまた再度市民の方から広くご意見をうかがっていきたくと考えている。今のところの関係部署としては、Lホール、市民課の北口サービスコーナー、駅前分館で、その中で、意見を頂戴していくことになっている。前回のご意見は今、あらためて内容についてどのように市として考えていくか話し合っているところだが、今回またプラスでご意見を伺うことを考えている。まだ、お出しできる段階になっていない。お見せするだけ。5館のスペースのうち、3分の1は屋外庭園。特定建築者の提案で農園を作ろうという考えになっている。その農園を使ったカフェがあったり、ラウンジがあったり、東京経済大学のサテライト教室が設けられたり、真ん中の部分がそういうスペースになっていて、Lホール、ギャラリー、市民課のサービスコーナー、図書館があるというイメージを持っている。このイメージについてはだいたい特定建築者の提案としてこういう形になっているので微調整はあるにしてもこういう流れになっていくと考えている。図書館は160㎡の予定。本を読みながらお茶が飲める、勉強するスペースが欲しいとか、そういうご意見も前回に頂いているので、そういうところも含めて、考えていけたらと思っている。これらのご意見も踏まえ、実施設計をする。前回、日野の市制図書室をご覧いただいたところで今回ご意見を頂ければ、そういうところも含めて検討させていただきたいと思っている。日野に行かれた直後なので新鮮なご意見を出していただければ。

会長：それでは、前回までの状況とそれほど進捗していないが、その間に日野市立図書館の市政図書室を見学したということで、その中からお気づきのことがあれば。私は都合で行かれなかったが、どんなイメージをお持ちか、感想を。

委員：日野の町の特長、新撰組が始まって、街に溶け込んでいる。公民館のようなことを図書館がやっていて町の情報センターみたいなところがあるかもしれない。日野ならではのやり方を感じた。

会長：市政図書室はどうか。

委員：いっぱい資料はあるなという感じはしたが、説明の方が入所された時に、仕組みが

変わったとかでわかりやすかった。

委員：やはり市の中に溶け込んで、商店街も参加して、役に立ってああいう方法が図書館にもあるんだなど、都会にはない動きだ。

会長：日野の図書館の場合は新撰組、大河ドラマを契機に地元の盛り上がりをうまく活用してもととの財産である土方や、市民の盛り上がりをうまく図書館に結集させた。そういう意味では図書館のイメージしたものをしっかり市民に浸透させていった。それを市民がきちんと受け止めていった。本来もともと図書館というものは行政だけできるものではなく、市民が支えるというような意味合いでないとその典型が日野の状況だなど、他の自治体も参考になる。

委員：公民館がやっているようなことと同じだなど驚いたが、行政図書館は、膨大の資料が入っている。

委員：新聞の切り抜きとかかなりとっている。作業がすごい。素晴らしい作業をしている。あとから見ると市の状態が見えてくる。大切だなど思う。子どもが学校で自由研究に活用できる分野だと思って見せてもらった。面白いと思ってみてきた。

副会長：市政図書室と言うのは正直固いものと思っていた。例えば主婦の人が行くのかという疑問があったが。新聞のスクラップ、多摩動物園、公害、人口、主題が決まっています日野市、というところには線が引いてある。図書館というイメージと市民の暮らしに根ざしたというのがリンクしているのと、すごくメッセージ性が強い資料だなど。質問させていただいた時、学校では自分の街を知ろうとかいう関連のことがあると思うがそういう時にお子さんが来たり資料を出したり勉強する機会があるのかなと思って質問したが、お子さんが使うということはあまりないという答えだったが、大人だけのものじゃないというか、学校教育とも連携できるものだったり。図書館という名前のイメージと資料が与えるイメージとのギャップがあり、たとえば、国分寺市となってしまうと全国の新聞になってしまうと、なかなか細かいところが見えてこないようになりがちで、そこに目がいかないということがたくさんあると思うが、スクラップを作ることによってそこに目をいかせるということをすごく感じた。あそこはそういうふうに来てきたノウハウがあってできる。ひとつの主題でもいいからそれを国分寺の図書館で決めて追い始める。たとえば駅前分館ならお鷹の道にはどこから行ったらとかいう質問の時にやってみる。どこに行ったらいいかという時にスクラップがあり、旅歩きや、街歩き本にはないもっと丁寧な国分寺の魅力を伝えられる一つのテーマのものを作っていけるといい。こういう情報があるというのを利用者の方から気軽に言っていただける環境づくりも考えていただく。町をもっと知っていただけたらいいなと思うので、一つでもいいから手作りの親近感がわく資料を置いていただけると血の通ったお付き合いができていいなと思った。

委員：図書館の仕事かどうかわからないが、市として国分寺市の良さ歴史をもっとうきぼりにするものがほしい。国分寺と言うものも歴史がある。

副会長：利用していく側から、発見していくような場所にできるような駅前分館の使い方

ができたらいい。

委員：図書館に資料があるから行政の方も使っていける。市民も使う流れができています。

委員：図書館の人にそれを言っても無理なので、図書館の上のところに今のことをぶつける。意識は持っても、大きくしていくためには上の人を巻き込まない限り、終わってしまう。

委員：教育委員会の人に啓蒙していく。

会長：教育委員会だけではなく、全庁的な取り組みとして国分寺駅前のあの場所をどういうふうにイメージするか。コンセプトを明確に打ち出さないと、限られたスペースなのであれもこれもとすると結局なにも効果を発揮しない。そこは非常に大胆な発想をする必要がある。ご覧いただいた市政図書室は市役所とついでに市役所の内部の人も利用できる。議員も利用している。一般市民も足を運んで利用している。市役所と直決しているというイメージが非常に強い。市役所はもともと文書や何かについては庶務課のようなところがやるわけだが、その役割を図書館が担っている。それで市役所隣接の意味がある。

国分寺の場合は市役所と離れた状況だし床が大きくなり、隣接していない。乗降客は多い、駅のところにあるのでそういう利便性を活用した中で何をアピールするかそれが大事だ。

国分寺の宝がいっぱいあるわけなのでそれらで図書館らしさを出していく中でアピールできればいいかと思う。日野の新聞スクラップは有名で、30年以上は続いている。毎朝職員が新聞に目を通して日野という言葉が出てきたら、切り抜く。スクラップにして部課長に毎朝送る。そういう作業を図書館としてやっている。それによって図書館がこういう情報を提供してくれ、部課長は自分に関連する記事を見て、庁内に向け、情報発信できる。これによって市民の目線と同じ情報が伝わってくる。市民はいろいろな新聞を見ている。その日の午前中にだいたい見て目を通せる。この状況を作り出している。行政に生かせる。

市民に向けて国分寺らしさをどうアピールするか考えていく必要がある。

委員：国分寺に来て10年目だが、武蔵野の国の中心だということは、よそに自慢できる歴史がある。そういうことをもっとアピールする。ふつうの人の目線でもいっぱいあるものを集めて皆さんに情報提供すれば国分寺の図書館はいいものができる。

委員：今の意見をアンケートのその他お気づきのことのところに書くとなにか有効性が高いか。

館長：書いていただければ。

委員：国分寺らしさを取り入れたらどうだろうとか。

館長：教育長部長にも読んでいただく。

会長：新幹線も国分寺関連の、光町というのは新幹線発祥の地と言うところからついた。

館長：鉄道総研があり、ひかり号を開発して、そのころ町名変更があり平兵衛新田という名前だったのが、光町という名称を採用したが、そのお礼として総研はお祭りの名

前になり平兵衛まつりとして今も続いている。ひかり号があり子供に人気だがそこに本を置いて「しんかんせんぶんこ」としている

副会長：平兵衛まつりに図書館も参加して読み聞かせなどをしたら楽しいかなと思う。

委員：商店街も協力して対応している。こんなふうには市民が参加している。

館長：ペンシルロケットの発祥の地が早稲田実業の今あるところで、糸川博士が初めて 30メートルぐらい飛んだということで宇宙開発発祥の地という碑が建っている。

会長：図書館でもそういうものを目玉に位置付けてそういうことを中心にやっていけば見方は変わってくる。

(以下国分寺の見どころ等の関係で話が続いている部分を省略)

会長：いろいろなことをやっているので出し方を工夫すればなじんでいく。地域への愛着が出る。それを発信するのが図書館の役割。

委員：国分寺はブランドイメージがある。

委員：国分寺は老人ばかりのイメージがある。いいことがいっぱいあるのに訴え方がパーツパーツで下手。

委員：にしこくんがはやっている。ああいう時代なのかと思う。発信している。

会長：昔は高円寺国分寺吉祥寺という 3 つ寺がつくという 3 本柱があった。学生の町というイメージもあった。

館長：今は開発が事務局になりこれからご意見を伺う。パブリックコメントはもう少し先。実施計画に反映するための意見徴収。この会でも、また伺っていきたい。

会長：今日の見解もまとめておいていただき、出していただければ。2 番目の協議事項は終わり。その他は特になし。

会長：報告事項、小平市との相互利用について。

館長：11 月からスタートし、11 月 12 月 1 月の 3 カ月の統計になっている。2 倍以上国分寺市の図書館が利用されている。本多図書館と並木図書館がにぎわっている。国分寺市には大きな図書館がないので小平市の中央図書館は資料が充実しているのでよく利用されている。津田の図書館、喜平図書館は近いということでよく利用されている。上水南の分室は小さい図書館なのだが利用されている。近ければ利用される。国分寺は新規登録が初日は 40 件以上だったが、今はそうでもない。利用カードにオレンジ色のシールを貼ってわかるようにしている。貸出冊数が市民の半分で予約ができないが、小平市民からは、予約できないのが残念と言われている。19 日に小平の図書館との事務レベルの打ち合わせをする。国分寺は予算が厳しい中これ以上の拡大は難しいと思っているが、今はこのように利用されているという報告をした。

会長：当初の予想と比べてどうか。

館長：予想通りという感じ。国分寺市の図書館の方が通勤通学経路にあっているということがあり国分寺の図書館を利用する利用者が多いただろうということは想定していた。将来的にもっと増えることがあったら協議していかなければいけないが。相互利用というのはある程度デコボコはある。反対に国立や府中にはお世話になってい

る。許容範囲かと思っている。

会長：次にアウトソーシングについて。

館長：資料7-③12月26日に教育委員会の定例会について。アウトソーシング実施方針が策定された。前回にも説明したがこの内容で確定した。教育委員会で審議したのでそこで出た意見も入れて最終版という形で手元にお配りした。今後行革推進本部で検討し、実施方針が決まるか決まらないかということになるが、2月に開催するという話だったが、まだ開催されていない。こういうものが出たという報告はされている。内容について検討が進んでいない。これに沿って実施方針、実施計画を作っていかなければならないので、検討をしていくことになる。場合によっては再検討で戻されることもあると思っている。そういう状況である。

会長：前回との検討事項。

館長：変わっているところはない。

会長：一応12月26日に教育委員会としては決定したと受け止めるということ。

委員：前はこれから審議するという前の時でいろいろな話があったが、そういうアドバイスは盛り込まれているか。それともそのままか。

館長：もう教育委員会に案として出されていたので、変更はない。今後の実施計画を策定していく中で頂いたご意見は反映していきたい。

会長：今後実施計画を作るにあたり、前回の皆さんの意見を反映して進めてほしい。先程駅前のことでいろいろ議論が出たが、そういう、図書館が本来やることで街の活性化が図れるようなものを目玉にして進めていくことにして、アウトソーシングはやむを得ない措置ということだと思うが、それを乗り越える形で図書館側が施作を練るというか、提案してほしい。次、システムの変更について。

館長：昨年5月から新システムに向けて調達、12月に業者が決まり、契約に向けた手続き、NTT 東日本で図書館のシステムは京セラ丸善。国分寺市は平成5年に図書館システムが導入されてから20年、日立を使用していた。初めて図書館システムの会社が変わる。今回の目玉は京セラ丸善のシステムで、公共と学校が一括で運営されるシステム。運用は別々だが基本一本のシステムで運用。学校から公共、検索から始まった支援。公共から学校への支援が強化される。書誌データは大阪屋マークから買っていたが、新たに東版マークの提案があった。今後変更していく予定。データの総入れ替えを行うため更新がとても大変。9月後半から規定内の年間15日の臨時休館を設け準備。10月1日本稼働予定。メーカーが違うので配線から全部やり直しになり日数がかかる。ほかに特色としては、ホームページを見ていただくとわかると思うが、色の統一感がないのでシンプルにしていく予定。ほかに、今年は市制50周年になる。各部局で取り組んでいるが、図書館ホームページにデジタル博物館の窓口を作り、ふるさと文化財課所蔵のデジタル資料を公開する。広報が長年蓄積した写真をデジタル化している。図書館だけ独自でホームページを持っているので、窓口を作って管理し公開する。併せて市の発行物の電子書籍化を図ってアップ

していけたらいいのではないかと考えている。本稼働は10月だが11月1日ぐらいからスタートできるよう、準備を進めている。また、前回の時に相談させていただいた、利用制限についても、新システムの稼働に合わせて運用していけたらと思っている。この運用は新システムの稼働と同時に行うと混乱が生じる可能性があるので、年度内ぐらいには実施できるよう準備を進めたいと思っている。

会長：長年来、同じメーカーのものをここでリニューアル。新たなものを採用していく。ホームページ上の新たなサービス。何かあるか。

委員：単なる老婆心だが、変更管理は大変で必ずトラブルが起こる。責任持つのはNTTなのか丸善なのか、明確にして、考えているだろうが、気をつけてちゃんとやってほしい。大変だと思うが。

館長：今までは図書館単体で行っていたが、今回は、NTT 東日本が窓口になり、学校の先生方が使っているグループウェアや、すべての配線を1から組み立て、ある部分教育委員会全体のシステムになっているので、教育委員会の庶務課が窓口になって打ち合わせしている。図書館の部分については京セラ丸善の方と直接やりとりして組み立てていく。もちろん丸善が間に入るが直接やり取りしてという形になっているSEとも打ち合わせしながら進めたい。

委員：9月の後半2から3週間は全館か。

館長：一勢。図書館のシステムを止めて、データを吸い上げ、新しい機械に入れ替え、「ホームページも休館中です」として中身は使えなくなる。

会長：それは告知が大事。相当前から伝えておかなければ。

館長：ここで契約が最終的に固まり、2月末から正式打合せが始まる。タイムスケジュールから検討しそこで決まり次第広報していく。

会長：他には。今回の場合はシステム自体が大きなシステム、いろいろなところが関わっているなので、責任の所在を明確にしておかないと責任のなすり合いになりかねないので改めて確認しあった方がいい。

館長：そのように努めたい。

会長：教育委員との懇談会について。

館長：平成18年から8年になるが、第3期の運営協議会から教育委員との懇談会をやり始めた。公民館運営審議会は長くからあり毎年懇談会をやっていた。図書館は後からスケジュールが難しく入れられなかったが、2年前に一回やった。2年に1回懇談会を、というお願いをしており、今年は7月24日、7月の定例会後、午前11時からお時間を頂きたいと思う。約1時間。

会長：7月24日午前11時からで、変更はきかない。

館長：11時から約1時間。教育委員会は毎月第4木曜日午前9時30分に開催し、その後に、学校の視察や公民館などとの懇談会をしている。場所は教育委員会の光プラザ。第1回は光プラザで行った。運営協議会の定例会はその日にはやらない。11時に直接光プラザへ。話の内容については正副会長と打ち合わせをして伝えたい。

会長：この趣旨は懇談会なので教育委員が我々の話を聞く。

館長：教育長教育部長も出席するが、日頃図書館の協議していることを知っていただくことも含め教育委員の方に聞きたいこと、教育委員から聞きたいこと。お互いに話す。お願いするという会ではなく懇談。

会長：要望の場ではなく、教育委員会としてこういうことを考えているというのをアピール、こうしてほしいではなく我々もこういうことを考えているということを前面に出す。そのような議論ができれば。

会長：図書館の夢を語っていきたいということ。利用者をはじめとした市民と共有していく場を持ちたい。その日は極力出席で。次に各館の活動について。

館長：なかよし文庫ともとまち図書館共催の講演会で「読み語りの力」2月22日に開催。もとまち図書館の児童文学講座「子どもの育ちとわらべうた」3月14日にもとまち公民館で開催。春休み26日に恋ヶ窪と25日に光で映画会。

会長：なかよし文庫共催はこういう形は毎回行われているのか。

館長：文庫が、なかよし、東元町、はらっぱ、3つあり各文庫との共催講演会をやっている。おはなしグループには、おはなしポケット、共催もやっている。そのほか、もとまち図書館児童文学講座、講演会2回。並木図書館講演会1回。読み聞かせ講習会3回図書館主催でやっている。子ども読書の日講演会1回全館分で。

会長：それではその他。手元に利用者懇談会の記録がある。

館長：合計6か所で開催している。今回は前回の運営協議会でも検討いただいた利用制限について皆さんにご意見をお聞きしている。障害者サービスで、利用者懇談会には来られないが周知してほしいということで大活字本や拡大読書器を光もとまちに設置しているのでそれについての紹介も併せてした。24年度の状況25年度の活動、それ以外に貸出制限についてのご意見を伺った。

利用制限については管理的にはならないように、でも行う方がいいのではないかというご意見を頂戴した。進めさせていただきたい。あとは館により話が出たがアウトソーシングについては教育委員会での決定を受け懸念される声が出ていた。

会長：懇談会の記録は。教育委員会への報告は。

館長：教育委員会には報告していない。ホームページにはアップしている。

会長：事務的には教育長までの決裁で報告した方がいい。

館長：そのようにしていきます。

委員：1人というのはスタッフの方が多い。

館長：日付の設定をいろいろ工夫してバラけさせているが。今回恋ヶ窪では普段図書館においでにならない方も参加していただいた。

委員：手渡しでチラシを渡していただくと来る気になる。

会長：どんな意見が出てくるかわからないので大変だが、こういう場をしっかりと押さえておくことが大事。窓口越しに通常は深いしっかり話ができないので、こういう時に話ができる。こちら利用者側もしっかり話ができるので意義があるので継続させ

ていく。浸透させていく。集まれる曜日、時間帯を考えながら。

委員：アンケートに利用者懇談会をご存知ですかと聞く。知らない人が多いと思うので。

館長：設問を考えてみたいと思う。

会長：その他。

館長：ご意見箱への意見。回答をしている。メールはご本人に返している。

館長：来年度予算は確定。図書館は市制 50 周年のデジタル博物館の関係が 1 点予算要求。

日常の図書館運営は、図書館主催の講演会講座について、今回保育者賃金を予算計上。読み聞かせ講習会は学校や地域で本を広く子どもたちの前で読むための講習会。小さい子をお持ちの方も多いため、3 回分のみだが保育賃金を要求した。学校と公共図書館の本の運搬。本年度は庶務課の運搬箱に 7 月から試行した。来年は図書館から本の運搬は週 1 回。各図書館から担当の小学校 2 校と中学校 1 校に運搬の予算計上をした。公共図書館間では週 5 日とし、あと一日は学校を回る便を増やす。

資料費は全体で約 60 万増加。図書費は変わらず 2,300 万。図書館システムは 10 月 1 日稼動。旧システムは半年再リース。子ども読書の関係では、団体貸出用図書、ブックリストの用紙、IC タグについては数年手が出せない状況だった。平成 21 年から貼る作業を始め、本多・恋ヶ窪・並木が終わり、光・もとまちがまだ。平成 26、27 で貼って 28 年に関連機器の導入を考えている。来年度は 12 万枚購入の予定で予算計上。教育委員会で審議し、3 月議会で審議し、3 月末には決定予定。

館長：これはまだ話が出たところだが、線路が高架を走るようになり、国立駅高架下利用。国分寺市も高架下の利用について、国分寺負担金を支出しているので一部国分寺市として使用できるスペースが借りられる。どの施設が良いかのワークショップの中では、図書館という声が出ている。国立からは、光が近い。坂上なので駅の近くに返すところがあると便利だというご意見は伺っているが、ブックポストだけでも。これからどう組み立てていくのか。という状況である。

会長：規模は、明確ではないのか。

館長：国立市はそこに図書館を作りたいという話が前からある。ブックポストが駅にある。

国分寺市のスペースは大きくないと聞いているので、駅前分館の規模すら確保は難しい。作るとしたら本の受け渡し場所。中途半端なものなので図書館としては負の財産になってしまうかもしれない。ブックポストは国立と国分寺と並んでいたら絶対間違える。相互利用を始めたときに小平の本が国分寺の駅の所のブックポストにも入ったのでどう運用が考えられるか。国分寺市は政策部が担当している。情報交換しながら対応したい。26 年度に設計、27 年に工事、28 年度くらいに完成予定。

会長：メリットがなければはっきり言った方がいい。必要なところに必要なものをちゃんと作るスタンスでやるのが大事。

館長：図書館としては西国分寺が一番必要。国立は光図書館があるので、国立にあつて国分寺にあつてという不公平感があるので慎重に対応したい。

会長：次回の運営協議会は。今年度は今日が最後。4 月以降で日程を。5 月でいいのでは。